

年ニ達シタル者ニシテ現役ニ服シタル年月(碎年トシテ服モ役含スタ)ヲ通算シ十ニ箇年ヲ過キタルトキハ豫備役ヲ免ス

第二十八條及第三十一條ヲ削ル

第三十九條中第二十八條ヲ削ル

第四十條 削除

第四十五條中刑罰ヲ刑ニ改ム

# 御諮詢案

## 皇室婚嫁令

義解

## 草案

皇室婚嫁令

第一章 大婚

第一條 大婚ノ禮ハ天皇滿十七年ニ

達シタル後ニ於テ之ヲ行フ

恭テ按スルニ大婚ハ立后ヲ謂フ

其ノ禮至重位ヲ坤闈ニ正シ範ヲ

萬禩ニ垂ル、所以ナリ惟フニ皇

室典範第十三條天皇及皇嗣ノ成

年ヲ定メテ滿十八年トシ民法上

ノ成年ニ先ツコト凡二年斯レ神

器ノ繫ル所通法ヲ以テ之ヲ拘定  
スヘカラサルカ故ナリ婚姻ノ年  
紀ニ至テハ固ヨリ上下同軌ナル  
ヲ妨ケス故ニ民法ト其ノ規定ヲ  
一ニス

第二條 天皇皇后ヲ立ツルハ皇族又

ハ特ニ定ムル華族ノ女子滿十五年  
以上ノ者ニ限ル

恭テ按スルニ神武帝橿原宮ニ御

シ改メテ廣ク配テ華胄ニ求ム其

ノ立ツル所ノ皇后媛蹈鞬五十鈴

媛命ハ事代主神ノ女ニシテ素戔

鳴尊ノ裔タリ族ヲ以テ論スレハ

正ニ對等ニ居リ詛ヲ以テ論スレ

ハ仍ホ皇親ニ屬ス爾來多ク之ヲ

皇親ニ擇フ而シテ臣籍ノ女子ヲ  
采ルハ聖武帝藤原不比等ノ女安  
宿媛ヲ立テ、皇后ト爲スニ昉マ  
ル中古以來立后ノ選多ク此ノ例  
ニ沿ルト雖亦實ニ槐門ノ外ニ出  
テス今皇族ノ外特定ノ華族ニ限  
ルハ此ノ前蹤ヲ斟取スルニ因ル  
但シ直系親族及三親等内ノ傍系  
血族ト相涉ラサルハ固ヨリ言フ  
待タス若シ夫レ女子ノ年齒ヲ滿

十五年以上トシタルハ其ノ義第  
一條ニ同シケレハナリ

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

第三條 大婚ノ約ヲ成ストキハ之ヲ  
賢所皇靈殿神殿ニ奉告シ奉幣使ヲ  
神宮神武天皇山陵並先帝先后ノ山  
陵ニ發遣ス

恭テ按スルニ婚姻ハ必ス兩者ノ  
合意ニ成ル故ニ大婚ノ約ヲ成ス  
ト謂フ古事記天津日高日子番能  
邇邇藝能命木花之佐久夜媛ヲ求  
ムルノ條ニ「吾汝ニ目合セムトオ  
モフハ如何ニト詔タマヘハ吾ハ

得<sup>マシ</sup>白<sup>マシ</sup>サジ吾カ父大山津見神ニ白<sup>マシ</sup>  
サムトマヲシタマヒキ故<sup>カ</sup>其ノ父  
大山津見神ニ乞ヒニ遣<sup>ハシ</sup>ケル  
トキニ大<sup>イ</sup>ク歡喜テ云<sup>云</sup>トアリ是  
レ太古ニ在<sup>テ</sup>モ亦必ス女家ノ同  
意ヲ要センヲ見ルナリ茲ニ其ノ  
約ヲ成スニ際シ必ス之ヲ賢所皇  
靈殿神殿ニ奉告シ併セテ奉幣使  
ヲ五十鈴宮畝旁東北陵及皇考皇  
妣ノ山陵ニ發遣スルノ條規ヲ定

メタルハ神祇ヲ崇奉シ祖宗ニ敬  
事スル列聖ノ遺法ニ基キ大孝ヲ  
申ヘ大禮ヲ重ムスル所以ナリ在  
昔天皇即位元服等ノ大禮ヲ行フ  
ニ方リ其ノ期日ニ先テ奉幣使ヲ  
神宮山陵ニ遣<sup>ハシ</sup>其ノ由シ奉告  
スルノ典例アリ今此ニ準據ス若  
シ太皇太后皇太后猶ホ在<sup>ス</sup>トキ  
ハ天皇ハ自<sup>カ</sup>ラ當サニ成約ノ前  
ニ於テ親シク啓告シテ其ノ允諾

ヲボムル所アルヘシ此等ハ固ヨ  
リ條文ノ規定ヲ待テ後之ヲ知ル  
モノニ非サルナリ

帝室制禮訓書

第四條 大婚ノ約成リタルトキハ宮  
内大臣之ヲ公告ス

恭テ按スルニ大婚ノ慶事ハ臣民  
ノ仰瞻スル所故ニ其ノ約甫ノテ  
成リテ宮内大臣直ニ之ヲ公告ス  
若シ夫レ外國ノ宮廷ニ通知スル  
等ハ皇室外交上ノ定例ニ依ルヘ  
キヲ以テ茲ニ之ヲ繫ケサルナリ

新編  
皇室  
制度  
叢書  
卷之  
第幾  
第幾  
第幾

第五條 大婚ノ禮ヲ行フ期日ハ宮内  
大臣之ヲ公告ス

恭テ按スルニ大婚ハ皇室ノ大典  
ナリ故ニ期日定マルニ及ヒテ仍  
ホ宮内大臣ノ公告ヲ要ス其ノ義  
總テ前條ニ同シ

新編  
皇室  
制度  
叢書  
卷之  
第幾  
第幾  
第幾



第六條 大婚ノ禮ヲ行ノ當日之ヲ賢  
 所皇靈殿神殿ニ奉告ス  
 恭テ按スルニ奉告ノ典第三條ニ  
 在テハ 戎約ヲ告ケ本條ニ在テハ  
 立后ヲ告ク竝ニ禮ニ於テ其ノ儀  
 シ鄭重ニスル所以ナリ

新編  
皇朝  
通志  
卷之  
第百  
一十  
七

第七條 大婚ノ禮ハ別ニ定メラル式

ニ依リ賢所大前ニ於テ之ヲ行フ

恭テ按スルニ大婚ノ禮上古ハ龜

馬タリ中世以來立后式ニハ宣命

使兼宣旨使策命使調度使等アリ

入内式ニハ御書使薰物使アリ又

夜御殿渡御ノ儀アリ又三箇夜餅

獻供ノ儀アリ禮ニ於テ未夕備ハ

ラストセス顧フニ大婚ハ天地ト

徳ヲ合シ日月ト象ヲ配シ宗廟ニ

祇承シ萬世ニ似續スルノ大典ヲ  
リ最モ莊重ニ其ノ禮ヲ行ハサル  
ヘカラス今賢所大前ニ於テ皇祖  
皇宗ニ對シ誓盟ヲ爲スヲ以テ大  
禮ノ主要トシ仍ホ本朝ノ典故ヲ  
酌存シテ附隨ノ儀注トス中興ノ  
大禮ヲ制定スルニ於テ庶ク遺  
憾ナケム

第八條 立后ノ詔書ニ大婚ノ禮ヲ行  
フ當日之ヲ公布ス

恭テ按スルニ大婚ノ當日巳ニ神  
明ニ虔告シ又其ノ禮ヲ賢所大前  
ニ行フ則チ以テ中外ニ宣示スル  
所ナカルヘカラス故ニ次クニ立  
后詔書ノ公布ヲ以テス即チ皇室  
典範第十六條ノ明文ニ遵ヒ其ノ  
時期ヲ確定スルナリ立后ノ詔書  
ハ古之ヲ宣命ト稱ス聖武天皇紀

ニ所謂ル皇朕御身モ年月積ニ又  
天下君坐テ年諸長ク皇后坐サマ  
事モ一ツノ善ラマ行ニ在リ又天  
下ノ政ニ於キテモ獨知ルヘキモ  
ノニアラス必スモ後ノ政アルヘ  
シ此ノ事立ツニアラス天ニ日月  
アルゴト地ニ山川アルゴト並ニ在  
テアルヘシ云云此ノ宣命ノ始  
ノテ史ニ見ユルモノナリ中世ノ  
儀注時ニ因革アリト雖大抵天皇

南殿ニ出御親王公卿列立シ宣命  
使版位ニ就キ立后宣命ヲ讀ム訖  
テ策命使皇后ノ本宮ニ詣リ立后  
宣命ノ由ヲ啓ス皇后群臣ノ慶シ  
受ケ饗宴ヲ賜フ儀式觀ノ儀アリ今  
必スシモ盡ク之ニ猶ハス

皇太后  
大婚ノ禮訖  
リタルトキハ天  
皇皇后ト共ニ皇  
靈殿神殿ニ謁ス

第九條 大婚ノ禮訖

リタルトキハ天皇皇后ト共ニ皇

靈殿神殿ニ謁スルハ蓋此ノ時ヲ

以テ始メトス故ニ特ニ之ヲ掲ク

即チ克敬ノ道ヲ盡ス所以ニシテ

夙夜祁祁ノ意ヲ昭カニセムトナ

リ

帝室制度  
禮記卷之八  
皇帝

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

第十條 大婚ノ禮訖リタルトキハ天

皇皇后ト共ニ太皇太后皇太后ニ謁  
ス

恭テ按スルニ此ノ條亦怡謹盡孝  
ノ意ヲ昭カニス皇后ニ在テハ則

チ躬尊屬ノ起居ヲ承ケ其ノ意ニ

順適スルノ始メタルナリ在昔天

皇即位元服等ノ大禮ヲ行ヒタル

後法駕ヲ備ヘテ太后ニ朝覲スル

ノ制アリ今其ノ意ヲ酌衷ス

帝室制度

皇極經世一  
卷之四  
禮記  
第十一條

第十一條 大婚ノ禮訖リタルトキハ

天皇皇后ト共ニ皇族文武高官有爵者優遇者及外國交際官ヲ會シ饗宴

ヲ賜フ

恭テ按スルニ在昔皇后ノ節會ニ

ハ管絃ノ御游アリ其ノ日ヨリ三

日間皇后ノ本宮ニ於テ饗宴ヲ賜

ヒ且祿物ヲ頒ツ貞觀式茲ニ其ノ精

神ニ基キ上下慶ヲ俱ニシ中外驩

ヲ同クスルノ制ヲ設ク凡ソ此ノ

種ノ宴讌ハ之ヲ外國ノ事例ニ照  
 スニ大婚約成ルノ時ニ於テモ亦  
 宜シク之ヲ行フヘキモノトス今  
 條規ニ掲ケサルハ著シテ成典ト  
 スルノ必要ヲ見サレハナリ此ノ  
 條ニ所謂ル皇族ハ親王王及其ノ  
 妃内親王女王ヲ包含シ文武高官  
 以下ハ各其ノ夫人ヲ包含ス又所  
 謂ル優遇者トハ一般皇室ノ禮待  
 ヲ受クル者ヲ指称ス大勲位大臣

禮遇親任官及勅任官待遇其ノ他  
 高勲高位者貴衆兩院議長等ノ類  
 亦皆此ノ中ニ在リ



帝室御禮論卷之三

第十二條 大婚ノ禮ヲ行ヒタルトキ

ハ天皇皇后ト共ニ神宮神武天皇山

陵竝先帝先后ノ山陵ニ謁ス

恭テ按スルニ大婚ノ約ヲ成スニ

方リ已ニ奉幣使發遣ノ事アリ今

其ノ禮行ハレタルニ際ニ特ニ本

條ノ規定アルハ第三條ト終始ヲ

相爲ス所以ナリ中世ニ在テハ立

后ノ後ニ於テ皇后宮使ヲ發遣シ

后清水賀茂松尾平野稻荷春日大

新皇御禮論卷之三

原野吉田ノハ社ニ奉幣ノ儀アリ  
又勅使ヲ先帝山陵ニ遣ヒシ幣帛  
ヲ奉リテ立后ヲ告クルノ例アリ  
茲ニ必ス親巡展謁ノ事ヲ規定ス  
ルハ兩聖俱ニ身ヲ以テ禮ヲ率  
ムトナリ

皇室制度

第十三條 立后ノ詔書公布セラレタ

ルトキハ圖書頭其ノ事項ヲ皇統譜

ニ登録ス

大婚ニ關スル記録ハ圖書寮ニ於テ

之ヲ尚藏ス

恭テ按スルニ立后ノ詔書公布ノ

後圖書頭ハ須ラク皇后ノ御名、誕

生入宮ノ年月及其ノ父母ノ氏名

等ヲ按シ之ヲ皇統譜ニ登録スヘ

シ但シ其ノ登録ノ規程ハ別ニ定

皇室典範  
第百一十條  
皇室  
御用  
御用  
御用

ムル所ニ據リ此ニ縷拆セス大婚  
ニ關スル記録ニ至テハ洵ニ皇室  
重要ノ典籍ニ屬ス故ニ圖書寮ニ  
シテ之ヲ保存セシムルナリ

第十四條 諒闇中ニ大婚ノ禮ヲ行ハ

ス  
恭テ按スルニ諒闇ニ天皇皇考皇  
妣皇祖考皇祖妣ノ喪ニ居ルヲ謂  
フ在昔諒闇中ニ立后ノ禮ヲ行ヒ  
シ先例罕ニ之アリト雖後世遵由  
スヘキノ制ニ非ス因テ本條ヲ規  
定ス

皇室典範  
第四十條  
皇族婚嫁

## 第二章 皇族婚嫁

第十五條 皇族婚嫁ノ勅許ハ其ノ約

ヲ成ス前ニ於テ之ヲ奏請スヘシ

恭テ按スルニ皇族ニ至尊監督ノ

下ニ在リ故ニ皇室典範第四十條

其ノ婚嫁ヲ定メテ必ス勅許ニ由

ルモノトス既ニ勅許ニ由ル則テ

其ノ允准ヲ請フハ應サニ必ス成

約ノ前ニ在ルヘキナリ茲ニ其ノ

順序ヲ示明ス

皇室典範  
第百一十條  
皇太子皇太孫親王王結婚  
ノ禮ハ別ニ定メタル式ニ依リ賢所  
大前ニ於テ之ヲ行フ

第十六條 皇太子皇太孫親王王結婚

ノ禮ハ別ニ定メタル式ニ依リ賢所

大前ニ於テ之ヲ行フ

按スルニ本條ヨリ起テ第十

九條ニ至ルノ各項ハ專ラ皇太子

皇太孫親王王ノ為メニ設クルノ

特例ニ屬ス蓋皇太子皇太孫ハ國

儲ノ重キニ繫リ親王王モ亦皇位

繼承ノ順序ニ依リテ皇作ヲ踐ム

コトヲ得ル者アルカ故ナリ但シ

本條ハ第七條ト其ノ禮ヲ同リス  
ルニ拘ラス大禮ノ主要タルヲ以  
テ特ニ之ヲ昭示ス

皇室制禮

第十七條

皇太子皇太孫親王王結婚

ノ禮訖

リタルトキハ

妃ト共ニ天皇

皇后太皇太后皇太后ニ朝見ス

恭テ按スルニ此ノ條亦本ト第十

條ノ義ニ外ナラス但シ皇儲以下

ニ在テハ須ラク先ツ天皇皇后ニ

朝見スヘキヲ以テ特ニ之ヲ另掲

スルノ必要アルナリ

皇室制禮

皇室制度論

第十八條 皇太子皇太孫ノ結婚ニハ

第三條第四條第五條第六條第九條

第十一條第十二條ノ規定ヲ准用ス

然テ按スルニ皇太子皇太孫既ニ

明兩ノ象ニ膺リ其ノ妃モ亦皇后

ニ陞ルノ位ニ在ルヲ以テ結婚ノ

式ニ宜シク大婚ト其ノ豊盛ヲ嫁

フヘシ故ニ各條ヲ准用シ儀式ヲ

莊重ニス諸ヲ古例ニ稽フルニ僉

然ラサルハ無キナリ

皇室制度論

皇室制度  
勅令

第十九條 親王ノ結婚ニハ第五條第九條ノ規定ヲ准用ス

恭テ按スルニ親王ハ宗潢ノ貴ト

雖固ヨリ儲貳ニ副フ者ニ非ス禮

ニ於テ宜シク殺降スル所アルハ

シ王ハ又之ニ亞ク故ニ大禮ノ主

要ヲ除ク外大婚ノ規定ヲ准用ス

ルハ本條掲クル所ノモノニ止マ

ル

皇室制度勅令



皇室典範第三十三條ノ明文ニ  
遵ヒ其ノ時期ヲ明示シタルナリ

第二十條 皇族ノ婚嫁ハ其ノ當日宮  
内大臣之ヲ公告ス

恭テ按スルニ大婚ノ公布ハ立后  
ノ詔書ニ由ル皇嗣以下ニ在テハ  
則チ宮内大臣ノ公告ヲ要ス此レ  
亦皇室典範第三十三條ノ明文ニ  
遵ヒ其ノ時期ヲ明示シタルナリ

皇室典範第三十三條ノ明文ニ  
遵ヒ其ノ時期ヲ明示シタルナリ

皇室制原訂集

第二十一條 皇族ノ婚嫁ハ男子満十  
 七年以上女子満十五年以上ニ違  
 ルニ非サレハ之ヲ成スコトヲ得ス  
 然テ按スルニ大婚ノ年紀既ニ上  
 下其ノ軌ヲ異ニスルノ必要ヲ認  
 ノス皇族ノ婚嫁モ亦論無キノミ  
 茲ニ之ヲ提清ス

皇室制廢詔書

第二十二條 皇族ノ婚嫁ハ直系親族  
又ハ三親等内ノ傍系血族ノ間之ヲ  
成スコトヲ得ス

恭テ按スルニ婚姻ノ制限ハ概シ  
テ直系血族三親等内ノ傍系血族  
及直系姻族ノ三項トス今直系血  
族ト直系姻族トヲ括稱シテ直系  
親族ト云フハ煩ヲ省クナリ抑皇  
族ハ已ニ至尊直接ノ監督ヲ受ク  
必スシモ毎事細目ニ涉リテ法規

ノ指定ヲ為スニ庸ナシ  
茲ニ略ホ  
其ノ大綱ヲ掲ク前後ノ諸條亦以テ類推スヘキナリ

第二十三條 皇族ノ婚嫁ハ諒闇中及皇族直系尊屬ノ喪中之ヲ成スコトヲ得ス

恭テ按スルニ本條ノ義ハ第十四條ニ同シ所謂ル直系尊屬トハ其父母祖父母ヲ謂フナリ

皇室典範  
第百三十九條  
第百四十條

第二十四條 皇族ノ婚嫁皇室典範第

三十九條第四十條ニ違フトキハ無

効トス

・ 恭テ按スルニ皇室典範第三十九

條ハ皇族婚嫁ノ制限ヲ立テ第四

十條ハ則チ宸裁ニ仰ク竝ニ防微

杜漸ノ道ニシテ其ノ旨極メテ深

遠ナリ違フ者ハ固ヨリ不法ノ婚

嫁ニ屬ス故ニ定メテ無効ト爲ス

ナリ

皇室制度論

第二十五條 皇族ノ離婚ハ勅許ヲ經

ルコトヲ要ス之遺ヲトキハ無効

トス

恭テ按スルニ勅許ニ成ルノ結婚

ハ明カニ其ノ離婚ノ場合ニ於テ

モ亦聖可ヲ經サルニカラス今之

ヲ成規ニ著スハ以テ皇族ノ

榮譽ヲ輕易ニ失墜セサラシム

トナリ

皇室制度論

皇室制度  
皇族ノ婚嫁ニ  
關スル事

第二十六條 皇族ノ婚嫁ニ關スル事

項ハ圖書頭之ヲ皇統譜ニ登錄ス

恭テ按スルニ皇族婚嫁ノ結果其

ノ名籍ヲ加除スルハ別ニ定ムル

ノ規程ニ依リ圖書頭之ヲ管掌ス

其ノ義第十三條ニ同シ

帝國議會ニ於テ修正ヲ加ヘタル衆議院  
議負選舉法改正法律案

右謹テ上奏シ恭シク

聖裁ヲ仰キ併セテ樞密院ノ議ニ付  
セラレムコトヲ請フ

明治三十三年三月八日

帝國議會  
庶務課  
庶務課長  
庶務課員